新潟医療センターニュース
第19号
発行
ＪＡ新潟厚生連
新潟医療センター
発行責任者
吉　澤　弘　久

地域包括ケアシステムという言葉をご存知ですか？

高齢者が、住み慣れた地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の5つのサービスを、一体的に受けられる支援体制のことです。
当院での取り組みの中心を担う、地域連携センターのセンター長の本多先生よりお話をお聞きしました。

地域連携センター講演会の様子

地域連携センターの目的・役割

当院の地域連携センターは、地域住民の皆さんの安心と信頼のため、病院、診療所、介護福祉施設、行政などと連携を取り、医療・介護・保健・福祉における切れ目のないサービスを皆さんに提供すると共に、高齢化が進む地域社会の発展と活性化に寄与することを目的としています。

地域連携センターは、
(1)介護老人保健施設こばり園
(2)新潟医療センター居宅介護支援事業所
(3)新潟こばり訪問看護ステーション
(4)医療福祉相談室
(5)地域医療連携室
の五部門で構成されており、それぞれの部署が役割を明確にするとともにお互いに連携を密にし、院内の診療部、看護部、事務部などと協力し業務を行っております。

退院に際しての問題は様々

今まで自宅で元気に過ごされていた人が急に病気になりますと、その病状だけでなく様々な問題（経済的な問題、社会的な問題、心理的な問題など）が起こってきます。

特に高齢者の場合は、病気や障害を抱えながら療養を続けなければならず今までと同様の日常生活を送ることが困難になることがあります。

例えば治療が終わって自宅へ退院できても、介護や療養が必要となる場合には訪問看護や訪問リハビリが必要か？　ベッドやポータブルトイレなどの福祉用具は？　入浴などの各種サービスは？　家の改修は？　など多くの問題があり在宅で過ごすための環境を整える調整が必要となります。

また病院から病院（療養病院など）への転院であれば自立度や介護度で、さらに病院から施設への入所であれば民間型や公共型などで様々な選択肢がでてきます。

問題解決のサポート

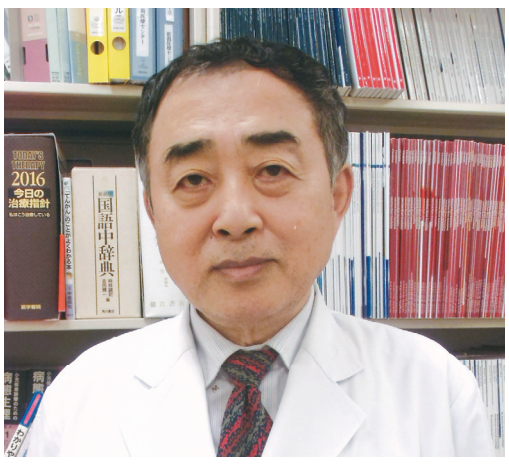
その様な際には、入院中よりキーパーソンと共に病院内の関係者（主治医や担当看護師、退院支援看護師、地域連携センターなど）との退院に向けての検討が必要となってきますし、施設への入所となりますと病院内の関係者だけでなく、その患者さんに関わってくる介護福祉施設や行政などの様々な職種（ケアマネ、保健師、看護師、理学療法士、生活相談員など）の関係者との連携が必要となってきます。そして患者さんの病状、治療状況、今後の見通し、家族の状況などそれぞれの職種が得ている情報の共有化と共に、各部署で綿密な連携を行い患者さんや家族にとっての最善の退院先やサービスを検討する必要があります。

当院では、日頃より病院と院外関係者との緊密な連携が取れるよう、地域連携センター次長を病院での医療、介護、保健、福祉の総合窓口として配置し、相談事、問い合わせなどを受けたまわっております。

地域との連携強化に向けて

さらに昨年より、地域の医療、福祉の関係者の皆さんとより顔の見える関係を築くため、年三、四回集まっていただき、高齢者医療の勉強会とともに医療、看護、介護、福祉などに関わる諸問題を検討する地域連携センター講演会を開催しております。

地域連携センター長　**本多　博史**



（裏面もご覧ください）

新任医師紹介

十月より新任医師・研修医が赴任いたしましたのでご紹介いたします。

小児科医長
柴田　奈央

十月より勤務させていただいております。
子どもたちやご家族のお力になれるよう頑張りますのでよろしくお願いします。
何かお子様の困っている症状があればお気軽にご相談ください。

研修医
横山　航平

十月に新潟大学病院から赴任いたしました研修医の横山と申します。
皆様の健康のお役に立てるよう精一杯努めて参ります。
どうぞよろしくお願いいたします。

ＪＡ新潟市農業祭に参加しました

例年参加の第十二回ＪＡ新潟市農業祭が十月二十一日（土）に、いくとぴあ食花で開催されました。
ＪＡ新潟市出店のつぺい汁、青年部のふるまい餅つきや美味しい食べ物！　またまたちびっこ人気のウルトラマンティガ！　ＮＧＴ４８人気メンバーによるトークショーなど楽しいイベントが目白押しでした。
私たち新潟医療センターは健康相談コーナーで骨密度測定、血管年齢測定を行いました。
明日には台風が近づいて来るという予報のなか、少し小雨がパラつき、来場が心配されましたが、健康に興味のある方が立ち寄られて、それぞれ二〇〇名弱の方が関心をもたれて測定されていきました。
測定された人の中には自分の想像より年齢が高くでたり若くでたりと、驚きの声や唸る？　声が多く聞かれました。
そんな中、管理栄養士と保健師で測定結果の説明、生活習慣のアドバイスなどをさせていただきました。
一定の年齢以上の方になると、毎日ウォーキングや野菜たっぷりの食事をとっている。禁煙したなどの健康習慣を実践されている方が増えてきたと感じました。
このように地域の方とのふれあいは大切であり多くの人と健康のお話ができ、やはり日々の実践が大切だと意義ある農業祭に参加でき楽しかったです。
みなさんも是非、来年はお立ち寄りください！

健診センター保健師
岩間　聡子

今年もインフルエンザの季節が近づいてきました

インフルエンザは気温が下がり、乾燥してくると流行してきます。
そして、インフルエンザウィルスは口から入り、感染をします。
日頃から、うがい・手洗いに気を付けましょう。
また、バランスのとれた食事や良質な睡眠などで自分の免疫力も高めておきましょう。
あとは予防接種です。予防接種を受けた方の中には「予防接種をしたけどインフルエンザに罹った」という方もいると思います。
インフルエンザワクチンの罹らなくする効果は約50％と言われています。しかし、意味がないわけではありません。インフルエンザワクチンはインフルエンザの重症化を80％予防できるのです。
だからこそ、インフルエンザに負けないためにも毎年ワクチンを受けましょう。

感染管理認定看護師
桑原　正祐

新之助を使った美味しい病院給食

当院では平成二十七年より、ＪＡ新潟みらいと連携して旬の地元農産物を病院給食に使用する取り組みを行っております。今までもミニトマト・スイカ・梨・さつまいも等を献立に組み入れて提供し、患者様から大変好評をいただいております。
今回は十月十九日（木）の昼食に「新之助」の新米を使用してごはんとお粥をお出ししました。「新之助」は米どころ新潟のプライドをかけて研究＆開発されたお米で、大粒の美しい輝きとツヤ、まろやかな甘味とコクの深さ、上品な粒感と弾力のある食感が特徴です。テレビＣＭ等でご存知の方も多いのではないでしょうか？
初めて炊くお米に緊張しながらも、いざ炊飯開始。炊き上がっていくにつれ厨房の中は明らかにいつもと違う香りに包まれました。そしてついに炊き上がり！　つやつやと光るごはんは、最高の状態で仕上がりました。
患者様からは「おいしかった」「粒が大きくて食べ応えがあった」「また食べたい」等ご意見をいただき、大好評でした。
通常の食事ではコシヒカリを使用しているのですが、新之助はいつもとはまた違った、新しい魅力に満ちていることを実感しました。これからも患者様に喜んでいただけるお食事を提供できるよう栄養科一丸となって取り組んでいきたいと思います。

栄養科長　**吉田　涼子**

上／美味しい給食を作ってくださる厨房スタッフの皆さん
下／話題のお米「新之助」を使った給食

編集後記

寒い日が増えるにつれて冬本番が近づいていることを実感します。
今季はどんな冬になるでしょうか？
来年二月には平昌オリンピックが開催されます。
暖かい屋内で選手を応援するのもいいですが、こんな時だからこそ温かい食べ物を食べて、たまには体を動かして心身のリフレッシュをしてみてはいかがでしょうか？

薬剤部　**西　大法**